

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月27日

(あて先) 一宮市長



提出者

住所 愛知県名古屋市中区栄4-3-26

昭和ビル8階

氏名 株式会社熊谷組 名古屋支店

執行役員支店長

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 052-238-3477

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社熊谷組 名古屋支店 (-宮市内の現場)
事業場の所在地	愛知県名古屋市中区栄四丁目3番26号 昭和ビル8階 (-宮市内)
計画期間	令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	06:総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高:320万円
③ 従業員数	334人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添 図-1 廃棄物処理フロー図のとおり

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添 図-2 建設副産物管理体制表のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・ IS014001に係る取り組みの中で廃棄物の適正処理に関する教育を行っている。 ・ 作業所業務においては協力業者を対象として新規入場者教育等により産業廃棄物の排出抑制ならびに分別の教育指導を行っている。 ・ 余剰資材の派生しない資材搬入管理を行う。 ・ 効率的な歩留まりを考慮した資材の発注を行う。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 今後も現状の取り組みを維持して行く。 参考資料： 別添 熊谷組グループの環境保全活動		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 安定型産業廃棄物とそれ以外の廃棄物を分別する。 ・ コンクリート破片、アスファルト・コンクリート破片、木くず、金属くず、紙くず（ダンボール）については、分別を徹底する。 ・ 現場作業員の生活系廃棄物（生ゴミ、新聞などの一般廃棄物）は、直接工事から排出される廃棄物と分別する。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・ 今後も現状の取り組みを維持していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・分別を徹底し混合廃棄物の発生を抑制する。 ・コンクリート及びアスファルトについては、再生資源化施設を有する産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 ・木くずについては、分別を徹底し、再生資源化施設を有する産業廃棄物処理業者に処理を委託し、チップ化、堆肥化、固形燃料化などを行うことで再資源化する。 		

③ 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙集計表のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・今後も現状の取り組みを維持して行く。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

図-1 廃棄物処理フロー図

発生排出状況

工種別の廃棄物	
(準備・仮設工事)	
(1) 仮設架設工事 仮設柱・脚立等	10
(2) 仮設資材撤去工事 仮設シールド(鋼管) 仮設スクリュー(鋼管)	2 3 4
(3) 仮設工事	
基礎・基礎コンクリート	9
基礎・基礎コンクリートの型枠	8
型枠	7
型枠コンクリート中の廃棄物	10
高気圧コンクリート(圧入用)	10
(解体・基礎工事)	
1. 基礎・基礎	11
2. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
3. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
4. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
5. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
6. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
7. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
8. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
9. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
10. 基礎コンクリート(基礎コンクリート)	4
(躯体工事)	
1. 躯体工事	10
2. 躯体工事	10
3. ALC板の廃棄	4, 5
4. 躯体工事, 躯体工事	8
5. 躯体工事	9
6. 躯体工事(躯体工事)	10
(棟梁工事)	
(1) 棟梁工事	10
(2) 棟梁工事	10
(3) 棟梁工事	10
(4) 棟梁工事	10
(5) 棟梁工事	10
(6) 棟梁工事	10
(7) 棟梁工事	10
(8) 棟梁工事	10
(9) 棟梁工事	10
(10) 棟梁工事	10
(11) 棟梁工事	10
(12) 棟梁工事	10
(13) 棟梁工事	10
(14) 棟梁工事	10
(15) 棟梁工事	10
(16) 棟梁工事	10
(17) 棟梁工事	10
(18) 棟梁工事	10
(19) 棟梁工事	10
(20) 棟梁工事	10
(21) 棟梁工事	10
(22) 棟梁工事	10
(23) 棟梁工事	10
(24) 棟梁工事	10
(25) 棟梁工事	10
(26) 棟梁工事	10
(27) 棟梁工事	10
(28) 棟梁工事	10
(29) 棟梁工事	10
(30) 棟梁工事	10
(31) 棟梁工事	10
(32) 棟梁工事	10
(33) 棟梁工事	10
(34) 棟梁工事	10
(35) 棟梁工事	10
(36) 棟梁工事	10
(37) 棟梁工事	10
(38) 棟梁工事	10
(39) 棟梁工事	10
(40) 棟梁工事	10
(41) 棟梁工事	10
(42) 棟梁工事	10
(43) 棟梁工事	10
(44) 棟梁工事	10
(45) 棟梁工事	10
(46) 棟梁工事	10
(47) 棟梁工事	10
(48) 棟梁工事	10
(49) 棟梁工事	10
(50) 棟梁工事	10
(51) 棟梁工事	10
(52) 棟梁工事	10
(53) 棟梁工事	10
(54) 棟梁工事	10
(55) 棟梁工事	10
(56) 棟梁工事	10
(57) 棟梁工事	10
(58) 棟梁工事	10
(59) 棟梁工事	10
(60) 棟梁工事	10
(61) 棟梁工事	10
(62) 棟梁工事	10
(63) 棟梁工事	10
(64) 棟梁工事	10
(65) 棟梁工事	10
(66) 棟梁工事	10
(67) 棟梁工事	10
(68) 棟梁工事	10
(69) 棟梁工事	10
(70) 棟梁工事	10
(71) 棟梁工事	10
(72) 棟梁工事	10
(73) 棟梁工事	10
(74) 棟梁工事	10
(75) 棟梁工事	10
(76) 棟梁工事	10
(77) 棟梁工事	10
(78) 棟梁工事	10
(79) 棟梁工事	10
(80) 棟梁工事	10
(81) 棟梁工事	10
(82) 棟梁工事	10
(83) 棟梁工事	10
(84) 棟梁工事	10
(85) 棟梁工事	10
(86) 棟梁工事	10
(87) 棟梁工事	10
(88) 棟梁工事	10
(89) 棟梁工事	10
(90) 棟梁工事	10
(91) 棟梁工事	10
(92) 棟梁工事	10
(93) 棟梁工事	10
(94) 棟梁工事	10
(95) 棟梁工事	10
(96) 棟梁工事	10
(97) 棟梁工事	10
(98) 棟梁工事	10
(99) 棟梁工事	10
(100) 棟梁工事	10

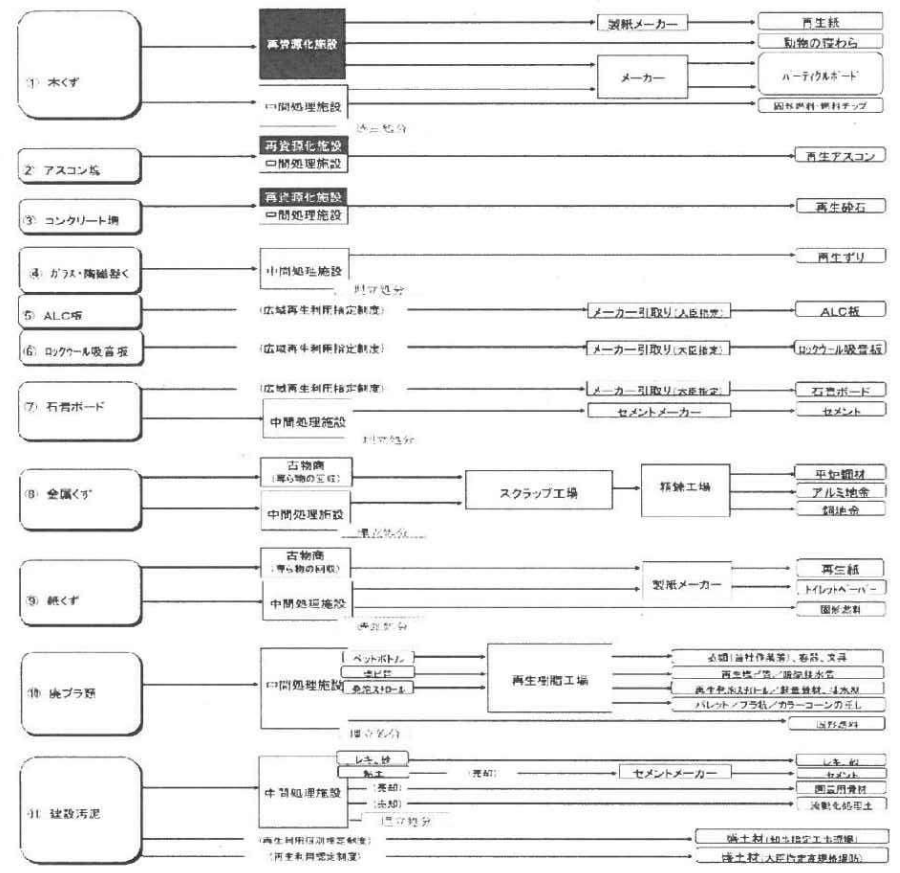
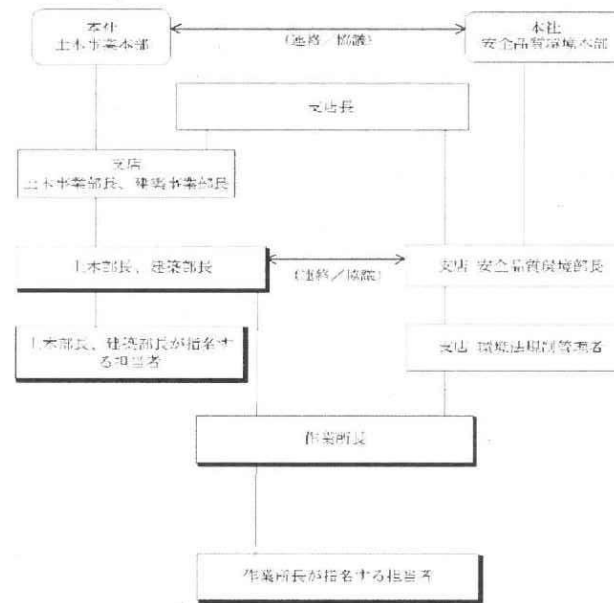


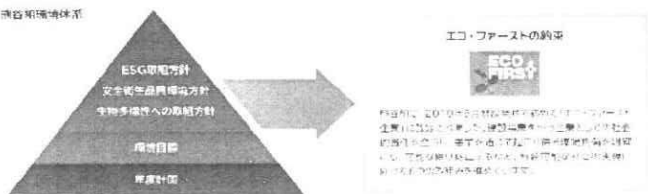
図-2 建設副産物管理体制表



環境経営に関する基本的な考え方

熊谷組グループは、持続可能な発展を促進し、社会・自然が豊かであり続ける社会を目指し、「持続可能な社会」の実現のために「環境活動」を通じて「環境に配慮した事業の推進」を主要課題として取り組むこととし、「カーボンニュートラル」の達成、「社会とステークホルダーの発展」「ダイバーシティ」の促進を実現し、社会課題の解決、目標を定めて取り組んでいきます。

熊谷組環境体系



環境保全の中長期目標

- 脱炭素社会への移行推進のための目標
- ※スコア1: 2020年比2030年42%削減
2050年カーボンニュートラル
 - ※スコア2: 2020年比2030年25%削減
2050年カーボンニュートラル

循環型社会の形成の推進の目標

- ※廃棄物の削減を分業ごとの目標とす
削減率※と排出削減率※(削減率2.0%以上の削減)

ECO-FIRSTの約束(抜粋)

- 事業活動を通じて気候変動の削減(「脱炭素社会」への移行を推進)します。
- 事業活動を推進して「循環型社会」の発展を推進します。
- 「自然共生社会」を目指し、生物多様性に配慮した取組を推進します。
- 適切な調達を行い、社会の発展、健康、安全に努めます。
- 地域社会の環境保全活動に積極的に参加します。
- 環境活動を積極的に推進し、ステークホルダーとパートナーシップを構築します。

環境に配慮した事業の推進

熊谷組は、2010年より「ECO-FIRST」を掲げ、環境・社会・経済の3つの分野で「環境に配慮した事業の推進」を主要課題として取り組むこととし、「カーボンニュートラル」の達成、「社会とステークホルダーの発展」「ダイバーシティ」の促進を実現し、社会課題の解決、目標を定めて取り組んでいきます。

熊谷組は、2010年より「ECO-FIRST」を掲げ、環境・社会・経済の3つの分野で「環境に配慮した事業の推進」を主要課題として取り組むこととし、「カーボンニュートラル」の達成、「社会とステークホルダーの発展」「ダイバーシティ」の促進を実現し、社会課題の解決、目標を定めて取り組んでいきます。

環境課題と取組の目標



事業活動と環境への影響 熊谷組単体(国内)の2023年度実績

INPUT	事業活動	OUTPUT																																										
<table border="1"> <tr><td>事業収入総計</td><td>9,421</td></tr> <tr><td>総計</td><td>3,671</td></tr> <tr><td>セメント</td><td>777</td></tr> <tr><td>シロクリート</td><td>777</td></tr> <tr><td>石膏</td><td>3,271</td></tr> <tr><td>法人営業収入</td><td></td></tr> <tr><td>電力</td><td>34,067千kWh</td></tr> <tr><td>燃料</td><td>19,033kL</td></tr> <tr><td>ガス</td><td>93kL</td></tr> <tr><td>水</td><td>29,270t</td></tr> <tr><td>電力</td><td>34,257kWh</td></tr> <tr><td>燃料</td><td>70千kg</td></tr> <tr><td>水</td><td>77千t</td></tr> </table>	事業収入総計	9,421	総計	3,671	セメント	777	シロクリート	777	石膏	3,271	法人営業収入		電力	34,067千kWh	燃料	19,033kL	ガス	93kL	水	29,270t	電力	34,257kWh	燃料	70千kg	水	77千t	<p>土木工事 売上高 994億円 1,174,721㎡の建設</p> <p>建設工事 売上高 2,274億円 6,627,477㎡の建設</p>	<table border="1"> <tr><td>スコア1-2 CO₂排出量</td><td>627,111t-CO₂</td></tr> <tr><td>NO_x排出量</td><td>187t</td></tr> <tr><td>SO_x排出量</td><td>120t</td></tr> <tr><td>廃棄物</td><td></td></tr> <tr><td>削減率</td><td>58%</td></tr> <tr><td>削減率(削減率)</td><td>55%</td></tr> <tr><td>削減率(削減率)</td><td>2,37%</td></tr> <tr><td>スコア1-2 CO₂排出量</td><td>0.2万t-CO₂</td></tr> </table>	スコア1-2 CO ₂ 排出量	627,111t-CO ₂	NO _x 排出量	187t	SO _x 排出量	120t	廃棄物		削減率	58%	削減率(削減率)	55%	削減率(削減率)	2,37%	スコア1-2 CO ₂ 排出量	0.2万t-CO ₂
事業収入総計	9,421																																											
総計	3,671																																											
セメント	777																																											
シロクリート	777																																											
石膏	3,271																																											
法人営業収入																																												
電力	34,067千kWh																																											
燃料	19,033kL																																											
ガス	93kL																																											
水	29,270t																																											
電力	34,257kWh																																											
燃料	70千kg																																											
水	77千t																																											
スコア1-2 CO ₂ 排出量	627,111t-CO ₂																																											
NO _x 排出量	187t																																											
SO _x 排出量	120t																																											
廃棄物																																												
削減率	58%																																											
削減率(削減率)	55%																																											
削減率(削減率)	2,37%																																											
スコア1-2 CO ₂ 排出量	0.2万t-CO ₂																																											

環境保全活動の推進

環境保全活動の推進を促進するため、以下に取り組んでいます。

- 本社環境法務担当者による本社単体社員教育(2回)
- 環境法務担当者による本社単体社員教育(2回)
- 2023年度に環境法務担当者による本社単体社員教育(2回)

環境報告

2023年度は環境報告書の発行を予定していません。

環境報告書の発行を予定していません。

産業廃棄物処理計画書 別紙集計表

現状:前年度(令和6年度)実績量
計画:今年度(令和7年度)計画量(目標)

単位:トン

産業廃棄物の種類	排出抑制		自ら再生利用を行った(行)量		自ら行う中間処理				自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った(行)量		処理の委託									
	排出量				自ら熱回収を行った(行)量		自ら中間処理により減量した(する)量				全処理委託量		優良認定処理業者への		再生利用業者への		認定熱回収業者への		認定熱回収業者以外の	
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画		
建設汚泥	1,045.0	200.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1,045.0	200.0	0.0	50.0	1,045.0	200.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃プラスチック類	3.5	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5	10.0	0.0	5.0	3.5	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紙くず	0.3	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	5.0	0.0	2.5	0.3	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
木くず	0.5	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	5.0	0.0	2.5	0.5	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
がれき類	64.8	70.0	-	-	-	-	-	-	-	-	64.8	70.0	0.0	25.0	64.8	70.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設混合廃棄物	0.0	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	5.0	0.0	3.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	1,114.1	295.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,114.1	295.0	0.0	88.0	1,114.1	295.0	0.0	0.0	0.0	0.0